

活動報告レポート	アスクル 東日本産業復興支援
報告日	2012年1月31日
報告者	公益社団法人 シビックフォース

### 気仙沼市唐桑町舞根地区における漁業復興の支援

宮城県気仙沼市唐桑町の舞根地区は、森と海と川の環境を一体として捉え、森に木を植えて森づくりをすることによって豊かな海を取り戻す「森は海の恋人」運動で全国的に知られています。また、周辺をリアス式海岸で囲まれ、三陸のカキ・ホタテ養殖の一大拠点でもあり、地域の中心的な産業となっています。

しかし、東日本大震災によって、それまで湾の一面に広がっていたカキやホタテの養殖施設は全て破壊され流出しました。そこで、アスクルは公益社団法人 Civic Force を通じて地域の中心産業である水産業の復旧と安心して生活できる地域の復興のための支援を進めています。

#### ■ ユニック車（クレーン付作業車）の支援

舞根地区は震災後いち早く養殖業の復旧・復興に向けた取り組みを開始しました。昨年5月には流出したカキの養殖いかだの組立作業を開始し、6月には被災を免れた石巻の養殖場からカキの稚貝を譲り受け、本格的な養殖作業を開始しました。今では合計30艘のカキいかだが舞根湾に浮かぶまでに回復してきています。今春以降も更にカキいかだを追加で設置する予定で、現在は近隣の山林から木材を切り出し、アスクルが提供したユニック車を利用して漁港への搬出を進めています。

また、昨秋からはホタテの養殖再開に向けた取り組みを始めています。北海道からホタテの稚貝を入荷した際には、約10トンの稚貝をユニック車に載せ替えて漁港へと運びました。現在ホタテは舞根湾で順調に成長し、早ければ約1年後には一部が収穫できる見込みです。



## ■ 水質調査・自然環境調査費用

東日本大震災によって舞根地区は甚大な被害を受け、眼下に広がっていた美しく穏やかな舞根湾の様子も一変しましたが、時が経つにつれて自然の生態系が回復し豊かな自然が取り戻されつつあります。

森林から河口付近、海域に至る各地点で土壌や水を採取し、有害物質や放射性物質の有無を分析し、微生物や魚介類の分布状況を調べて自然の回復状況を調べるとともに、生体内に蓄積されている有害物質や放射性物質の有無の調査を始めています。昨年未までの調査では、舞根湾の土壌から有害物質や放射性物質は検出されていません。安心して生活できる地域の復興に向けて大きな一歩を踏み出しています。



以上